



DH SYSTEM
大日本塗料株式会社

商品番号 1891

エポニックス#6000パテ

1. 一般名 エポキシ樹脂パテ
 2. 規格 社内規格
 3. 特徴
 1) 耐水性、耐薬品性にすぐれている。
 2) エポキシ系下塗塗料、上塗塗料との相互接着性にすぐれている。
 3) 作業性がよく目やせが少ない。

4. 塗料性状

項目	内容				
容姿	2液性				
荷姿	5kgセット(主剤:2.5kg、硬化剤:2.5kg)				
色相	クリーム				
光沢	—				
密度(23°C)	塗料	—			
	揮発分	0.83			
粘度(23°C)	—				
加熱残分	96%				
乾燥時間	温度	5°C	20°C	30°C	40°C
	指触	3時間	2時間	2時間	2時間
	半硬化	24時間	10時間	10時間	5時間
標準膜厚	—				
引火点	SDS参照				
発火点	SDS参照				
爆発限界(下限~上限)	SDS参照				

上記塗料性状の数値は標準を示すものであり、若干の変動がある。

5. 塗装基準

項目	内容				
下地処理	—				
調合法	主剤:50部、硬化剤:50部(重量比)				
可使時間	5°C	20°C	30°C	40°C	
	4時間	2時間	1時間	30分	
塗装方法	木ベラ、金ベラ				
使用シンナー	エポニックスシンナーB				
塗装法	塗装方法	へら付け			
	希釈率	(原則として希釈しない)			
	標準使用量	—			
	標準膜厚	—			
	ワット管理膜厚	—			
塗装間隔	温度	5°C	20°C	30°C	40°C
	最小	24時間	24時間	6時間	5時間
	最大	5日	3日	3日	2日

6. 施工上の注意

- 被塗面の油・湿気・じんあい、水分(pH9.5以下、含水率10%以下)、その他の有害な付着物は完全に除去する。
- 使用時には主剤と硬化剤を規定の割合に混合し、十分攪拌して均一な塗料状態にする。混合比を間違えると十分に塗膜性能を発揮しないばかりか、塗膜が硬化しない事がある。
- 主剤と硬化剤を混合した後は、可使時間以内に使い尽くすこと。硬化反応が進んだ塗料はシンナーを加えても使用できない。
- 余り塗装間隔が長くなると密着不良を生ずることがあるので、必ず規定範囲内で塗り重ねること。尚、規定以上経過した場合は塗膜表面をサンドペーパー等にて研磨し、更にウエスにて清掃してから塗装すること。
- 通常希釈を必要としないが、もし必要な時は3%以内の添加でエポニックスシンナーBを使用し、これ以外のシンナーは使用しないこと。

7. 関連法則

	主 剤	硬 化 剤
危険物表示	第2類引火性固体	第2類引火性固体
有機溶剤区分	第2種有機溶剤含有物	第2種有機溶剤含有物
有害物質表示	SDS参照	SDS参照
劇物表示	—	—

8. 使用上の注意【警告】

- 安全情報に関する内容は、SDSをご参照下さい。

使用上の注意の詳細は容器のラベルに表示。